平成19年度　損害保険会社決算概況

1．平成 19 年度決算の特徴点

正味収入保険料が減収した一方で、台風などの自然災害による保険金支払に伴う負担が減少したことにより、保険引受利益は黒字に転じるまでには至らなかったものの、前年度より赤字幅は縮小しました。

また、利息及び配当金収入をはじめとする資産運用成績が好調だったことから、経常利益および当期純利益は引き続き黒字を確保しました。

2．決算概況

経常収益は、保険引受収益が 8 兆 7,222 億円、資産運用収益が 8,368 億円、その他経常収益が 341 億円となった結果、前年度比 472 億円（0.5%）減の 9 兆 5,931 億円となりました。

一方、経常費用は、前年度比 108 億円（0.1%）減の 9 兆 2,148 億円となりました。

この結果、経常利益は、前年度の 4,147 億円から 364 億円（8.8%）減益の 3,784 億円となり、税引後の当期純利益も、前年度の 2,510 億円から 142 億円（5.6%）減益の 2,368 億円となりました。

3．保険引受の概況

（1）正味収入保険料

正味収入保険料は、活発な荷動きを反映して海上保険が引き続き好調でしたが、主力の自動車保険、火災保険の減収により、全体としては前年度比 671 億円（0.9%）減の 7 兆 4,700 億円となりました。

＊正味収入保険料＝元受正味保険料＋受再正味保険料－出再正味保険料

（2）正味支払保険金

正味支払保険金は、自動車保険、傷害保険等の支払保険金が増加した一方、台風などの自然災害が少なかったことを反映し、火災保険の支払保険金が減少、全体としてはこれらが相殺されるかたちで前年度とほぼ横ばいの前年度比 7 億円（0.0%）減の 4 兆 3,367 億円となりました。

＊正味支払保険金＝元受正味保険金＋受再正味保険金－回収再保険金

その結果、損害率は、前年度の 62.0% から 62.8% へ 0.8 ポイントアップしました。

（3）保険引受に係る「営業費及び一般管理費」

保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は、信頼回復に向けた社内体制整備を行っていること等から、前年度に比べ 618 億円（5.3%）増の 1 兆 2,228 億円となり、事業費率は 1.0 ポイントアップの 33.2%となりました。

(4) 保険引受利益

正味収入保険料が減収した一方で、台風などの自然災害による保険金支払に伴う負担が減少したことにより、保険引受利益は前年度の 1,047 億円の赤字から、639 億円の赤字となり、409 億円の改善がありました。

＊保険引受利益＝保険引受収益－保険引受費用－保険引受に係る営業費及び一般管理費±その他収支

4. 資産並びに資産運用の概況

平成 19 年度末における総資産は 34 兆 7,091 億円で、株価水準の低下もあり、前年度末の 37 兆 2,747 億円から 6.9%の減となりました。

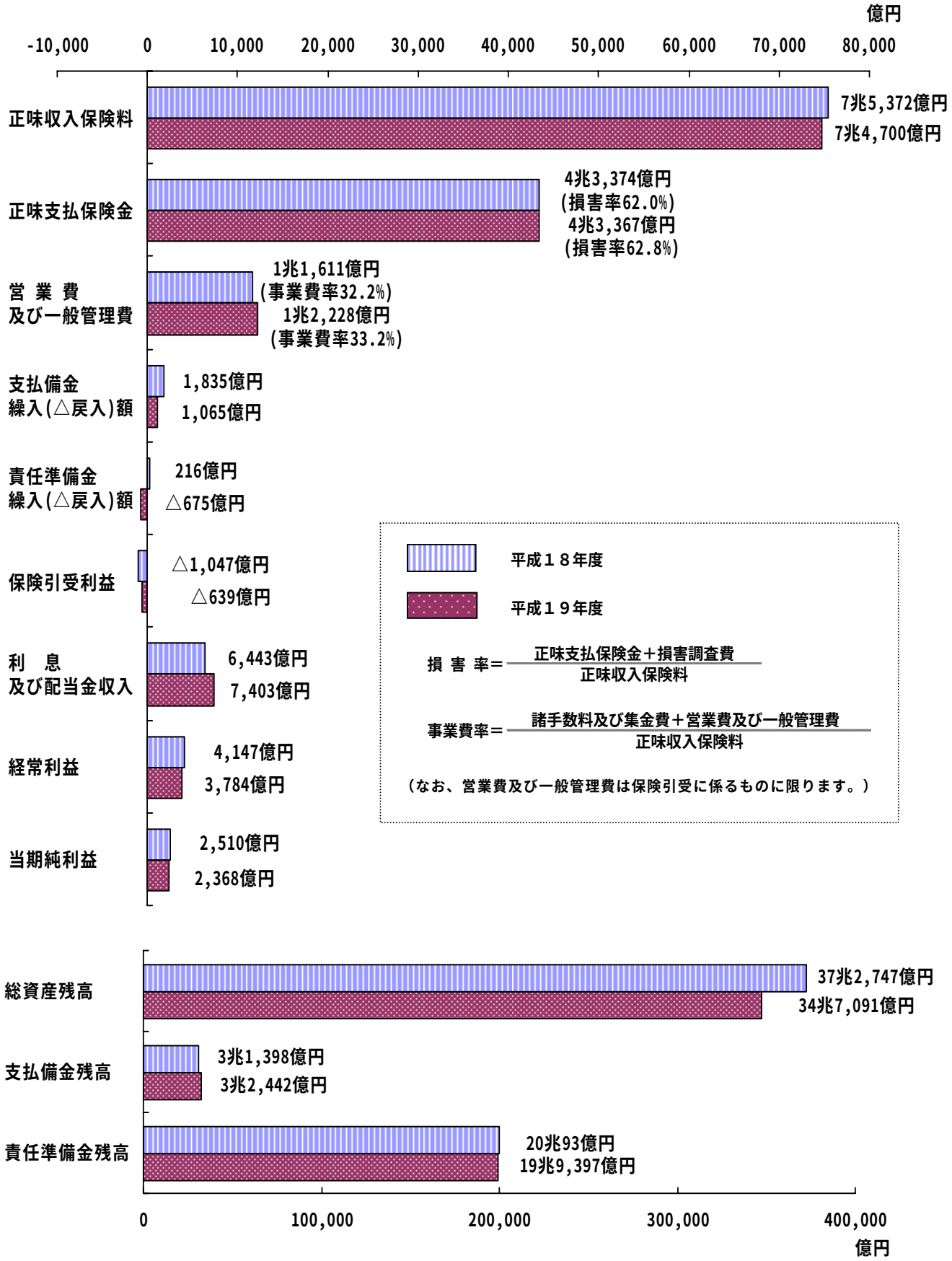
なお、利息及び配当金収入は、企業業績の回復等により配当金収入が増加したことなどから、前年度比 14.9%増の 7,403 億円となり、経常利益および当期純利益の黒字確保に寄与しました。

5. ソルベンシー･マージン比率

ソルベンシー･マージン比率は、全社とも法律で求める適正な水準であり、健全性については問題ない状況であります。

※協会加盟会社 (26 社)

あいおい損保、朝日火災、アドリック損保、アニコム損保、エイチ･エス損保、SBI損保、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぽ 24、大同火災、東京海上日動、トーア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

(注) なお、アドリック損保は、平成 20 年度から業務を開始しており、本集計の対象外としています。

損害保険会社の平成１９年度決算概況